

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via mail, click Send Results.

☒ Select All☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Free

1. ☐ 1/5/1

011948608

WPI Acc No: 1998-365518/199832

XRAM Acc No: C98-112410

Sheet-like pack material for skin - provides peelable
coating when applied on skin and has water-proof surfaces

Patent Assignee: KANEBO LTD (KANE)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10001417	A	19980106	JP 96174188	A	19960612	199832 B

Priority Applications (No Type Date): JP 96174188 A 19960612

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 10001417 A 3 A61K-007/00

Abstract (Basic): JP 10001417 A

The pack material provides a peelable coating when applied on the
skin. The surface contacting the skin and that away from the skin are
made water-proof. The application of the coating removes aged keratin.

ADVANTAGE - Prevents fingers from getting dirty when applying on
skin.

Dwg. 0/0

Title Terms: SHEET; PACK; MATERIAL; SKIN; PEEL; COATING; APPLY; SKIN; WATER
; PROOF; SURFACE

Derwent Class: D21

International Patent Class (Main): A61K-007/00

International Patent Class (Additional): A61K-007/48

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2002 Thomson Derwent. All rights reserved.

☒ Select All☒ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Free



© 2002 The Dialog Corporation

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-1417

(43) 公開日 平成10年(1998) 1月6日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/00			A 6 1 K 7/00	L
				U
7/48			7/48	

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号	特願平8-174188	(71) 出願人	000000952 鐘紡株式会社 東京都墨田区墨田五丁目17番4号
(22) 出願日	平成8年(1996) 6月12日	(72) 発明者	斎藤 雅人 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘 紡株式会社化粧品研究所内
		(72) 発明者	黒田 章裕 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘 紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 シート状バック料

(57) 【要約】

【課題】 角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、かつ指が汚れないシート状バック料を提供すること。

【解決手段】 ピールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ピールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、指が汚れないピールオフタイプのシート状バック料に関する。さらに詳しくは、肌に密着する面と反対の面を撥水化处理することで、指に粘着性樹脂が付着することを防止したピールオフタイプのシート状バック料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、角栓を除去することを目的にしたピールオフタイプのシート状バック料が種々考案されている。このシート状バック料の一般的な使用方法としては、鼻などの毛穴の汚れが目立つ部位に水やローションを塗布し、この上からシート状バック料を密着させ、乾燥させた後に、同シート状バック料を剥離し、角栓や老化皮膚を除去する方法が挙げられる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、水やローションの量が少なかった場合には、角栓や老化皮膚の除去能力が大幅に低下する場合があります。また逆に水やローションの量が多かった場合には、乾燥時間が長くなる、粘着剤が溶け出してシートから分離するなどの問題があり、水分量のコントロールが汚れの除去能力を決める重要な要因となっている。しかし、使用者が自分で水分量をうまくコントロールすることは難しく、汚れの除去がうまく行かない場合も多かった。さらに、水が多すぎた場合や手が濡れていた場合には、バック料表面を指で押さえたりしたとき、指に高粘性の粘着剤が付着してしまうことがあった。

【0004】

【課題を解決するための手段】この問題を鑑み、本発明人らは鋭意研究した結果、ピールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料が、指への粘着性樹脂の付着防止効果にすぐれることを見いだした。すなわち、本発明は、ピールオフタイプのシート状バック料であって、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするシート状バック料である。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を詳述する。本発明で用いるピールオフタイプのシート状バック料は従来公知のシート状バック料を用いることができる。シート状バック料は、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシメチルセルロース、酢酸ビニル、アルギン酸、アクリル樹脂、スチレン樹脂など

の従来公知の粘着剤層を有し、シート状に成形されたもので、さらに不織布や織布などの支持体を設けてあっても構わない。

【0006】また、鼻等の形に事前に加工してあっても、鼻の頭等の部位に細孔の密度を多くするなどの工夫がされていても構わない。

【0007】本発明のバック料における粘着剤層の厚さとしては、10～2000 μ mが好ましい。

【0008】本発明で用いるシート状バック料では、従来化粧料に使用されてきた各種の素材、例えば油剤、粉体（顔料、色素、樹脂）、フッ素化合物、樹脂、界面活性剤、粘剤、防腐剤、香料、保湿剤、生理活性成分、塩類、溶媒、酸化防止剤、キレート剤、中和剤、pH調整剤等の成分を同時に配合することができる。特に、平均粒子径5～300nmの微粒子酸化チタン、無水珪酸などの微粒子粉体を配合することが好ましい。

【0009】本発明のシート状バック料は、肌に密着する面と反対の面が撥水化处理されていることを特徴とするが、撥水化の方法としては、シート状バック料を作製し、肌に密着する面と反対の面の上から、撥水化剤を処理する方法や、事前に撥水化处理を行った織布や不織布、紙などの保持剤に上記粘着剤層を密着、接着または結合させる方法が挙げられる。

【0010】本発明で用いる撥水化剤としては、パーフルオロアルキル化アクリル樹脂、パーフルオロアルキルシリコン樹脂、パーフルオロアルキルシラン、アルキルアルコキシシラン、シリコン樹脂等が挙げられるが、撥水性の高いフッ素化素材であるパーフルオロアルキル化アクリル樹脂、パーフルオロアルキルシリコン樹脂、パーフルオロアルキルシランが好ましい。

【0011】撥水化剤で処理を行う方法としては、処理を行うシート状バック料や保持剤の上にアルコール、環状シリコン、軽質流動イソパラフィン、ヘキサン等の溶媒に溶解した撥水化剤を塗布し、これを乾燥する方法が挙げられる。

【0012】撥水化剤の塗布量は撥水化剤の種類や処理物の表面状態によって異なるが、水を用いた場合の接触角が60度以上、さらに好ましくは90度以上となる処理量が好ましい。60度未満では、手に粘着性樹脂が付着してくる場合がある。

【0013】

【実施例】以下、実施例及び比較例によって本発明を詳細に説明する。

【0014】実施例及び比較例で用いたバック料の評価は、各種肌症を有するパネラー10名に対して実施例および比較例で示した化粧方法にてバック料を使用してもらい、その結果をアンケート形式で集計した。結果はパネラーの内の何名が各評価項目に対して優れている、またはやや優れていると回答したかを示している。

【0015】実施例1

10

20

30

40

50

次の処方を用いて次の操作によってシート状パック料を調製した。

1. ポリビニルアルコール	8.0重量%
2. ポリビニルピロリドン	2.0
3. ポリアクリル酸Na塩	5.0
4. プロピレングリコール	2.0
5. グリセリン	1.5
6. 微粒子酸化チタン (平均一次粒子径35nm)	12.0
7. カラギーナン	0.2
8. エチルアルコール	20.0
9. 防腐剤	適量
10. 精製水	適量
合計	100.0

【0017】成分1～10を加熱混合し、パック原液を得た。一方、ポリエステル製不織布の片面に、パーフルオロアルキル化アクリル樹脂を軽質流動イソパラフィンおよび石油エーテルに溶解させた溶液をスプレー塗布し、溶媒を完全に乾燥させ、撥水化不織布を得た。この時、水の接触角は90度以上であった。撥水化不織布にパック原液を塗布し、ローラーを用いて厚さ0.7mmの均一面を形成した。これを適当な大きさに切断し、シート状パック料を得た。

【0018】比較例1

実施例1の撥水化不織布の代わりに、未処理不織布を用いた他は全て実施例1と同様にして比較例としてのシート状パック料を得た。

【0019】実施例および比較例のシート状パック料を用いて、石鹸洗顔後に鼻部に水を塗布した上からシート状パック料を圧着し、20分間その表面を手で擦り、鼻にシートを密着させた後、剥離した。評価結果を表1に示す。

【0020】

【表1】

【0016】

評価項目	実施例1	比較例1
角栓がよく除去できる	7	7
使用後のさっぱり感	7	3
使用後の指の汚れがない	10	3

【0021】表1の結果より、本発明の実施例のシート状パック料は比較例のそれと比べて角栓除去効果は同等でありながら、手の汚れが発生しなかった。これに対して比較例のシート状パック料は、シート表面を触っている内にシート表面に粘着剤が染みだし、指に粘着剤が移ってしまった。

【0022】

【発明の効果】以上のことから、本発明は、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、かつ指が汚れないシート状パック料を提供することは明らかである。